

## 会議の開催結果について

- 1 会議名 令和5年度 第2回 上尾市立中学校部活動地域移行  
推進協議会
- 2 会議日時 令和5年10月2日(月)  
午前・午後 1時30分 から
- 3 開催場所 上尾市役所 7階教育委員室
- 4 会議の議題  
(1) 令和5年度事業の進捗について  
(2) 地域クラブ活動モデル事業の進捗について  
(3) 上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針(素案)について
- 5 公開・非公開 公開  
の別
- 6 非公開の理由 無し
- 7 傍聴者数 0人
- 9 問い合わせ先 上尾市教育委員会学校教育部指導課  
(担当課) 048-775-9672

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第2回 上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会	
開 催 日 時	令和5年10月2日(月)午後1時30分から午後3時30分まで	
開 催 場 所	上尾市役所7階 教育委員室	
議長(委員長・会長)氏名	只限 伸也	
出席者(委員)氏名	萩原 康彦 鹿井 ゆかり 洞派 英樹 根本 和彦 佐藤 和成 都木 雅之 宮内 礼子	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	武田 直美 白石 恵子 栗原 雅之 宮田 直弥 玉造 勇輝 馬場 志保	
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果
	1 報告 (1) 令和5年度事業の進捗について (2) 地域クラブ活動モデル事業の進捗について  2 協議 上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針(素案)について	別紙のとおり
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 0 名
会 議 資 料	・令和5年度 第2回 上尾市立中学校部活動地域移行推進協議会資料 ・令和5年度 中学校部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者に対するアンケート調査 調査結果 ・上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針(素案)	
議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和5年 11月20日 議長(委員長・会長)の署名 <u>只限伸也</u> 議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)		

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局 (玉造)	<p>(1)令和5年度事業の進捗について、資料1ページ、資料1-①をお開きください。はじめに主な内容の進捗状況について御説明いたします。なお地域クラブ活動モデル事業については、報告(2)で御説明いたしますので、それ以外の内容の御報告となることを御承知おきください。</p> <p>まず、「アッピー部活動コーチ」及び「アッピー部活動サポーター」についてでございます。令和5年度より導入しております教員に代わる指導や大会等の引率も可能な部活動指導員、「アッピー部活動コーチ」につきましましては、現在までに9名を配置しております。指導員の育成にあたり、これまでに3回の研修会を実施し、上尾市立中学校に係る部活動の方針に基づく適切な指導についてや、「アッピー部活動コーチ」による単独指導、単独引率の実施に向けた研修、意見交換等を実施いたしました。先週まで実施しておりました新人体育大会上尾市予選会での「アッピー部活動コーチ」の様子を見ますと、該当校の部活動に係る引率、指導だけでなく、大会運営に係る役務についても従事するなど、配置の効果が表れてきているものと認識しております。</p> <p>「アッピー部活動サポーター」につきましましては、45名を配置しております。なお「アッピー部活動コーチ」及び「アッピー部活動サポーター」配置の効果の検証のため、2学期中にそれぞれ効果検証のための関係者に対するアンケート調査を実施したいと考えております。</p> <p>続いて(2)先進地視察について報告いたします。最初に埼玉県教育委員会主催第1回埼玉県地域クラブ活動シンポジウムでございます。資料4ページ、資料1-②を御覧ください。令和5年8月27日(日)にさいたま市浦和区ときわ会館で開催されました。内容といたしましては、埼玉県地域クラブ活動の整備・充実に向けての、埼玉県教育局保健体育科の説明及び文教大学二宮雅也教授による講演、埼玉県の地域クラブ活動に係る関係者によるパネルディスカッションでございました。二宮教授による講演につきましましては、これからの改革に必要な視点として、子供たちがスポーツや文化芸術に触れる機会を公的に保障してきた部活動は、日本が蓄積した極めて重要な機能であること、そうしたよさを生かしながらこれからの社会でも持続可能性の高い改革が必要であること、子供たちの考えを生かした改革を行う必要があること、学校教育から生涯学習領域への転換を図ること、スポーツボランティアを積極的に活用すること、中長期的な視点で部活動の地域連携を構築することなどのお話がありました。</p> <p>続いて、スポーツ庁、経済産業庁が後援する「イマチャレ」の「コンベンション2023 SUMMER」への参加でございます。「イマチャレ」は筑波大学体育スポーツ局等が主催し、部活動改革に係る様々な取組を進めている事業となります。毎月1回、部活動改革に係る情報提供も含めた相談会を開催しておりますが、8月のコンベンションは、より大きな規模で行われる取組ということで、半日に渡り参加させていただきました。資料の5ページ、資料1-③を御覧ください。内容につきましましては、「イマチャレ」が実施したアンケート調査の結果から、全国の子供たちが求める文化・スポーツ活動に関するお話、静岡県掛川市及び一般社団法人福知山ユナ</p>

イテッドが進める取組についての紹介、また、ソフトバンク株式会社など民間企業が進める取組についての紹介がございました。特に静岡県掛川市教育委員会の取組発表では、掛川市では、令和8年8月に部活動を廃止することとしたこと、とかく学校の働き方改革を中心に据えて部活動改革に取り組みがちであるが、そうではなく、地域全体のウェルビーイングという考えを前面に押し出して部活動改革に取り組んでいること、理想と現実的課題を整理した際に、これまでの部活動では、理想の実現は叶わないと判断し、地域クラブ活動の充実に力を入れることとしたこと、そしてそのことが、地域全体のウェルビーイングにつながると考えていることなどについての話がございました。

最後にヤマダホールディングス主催「YAMADAのブカツへGO！」への参加でございます。資料の6ページ1-④を御覧ください。令和5年8月26日（土）群馬県北群馬郡吉岡町に所在する吉岡町立吉岡中学校で開催されました。内容といたしましては、事業説明のあと、自治体向けの質疑応答に加え、生徒を対象とした指導の様子を公開するデモンストレーションが行われ、ヤマダホールディングスに所属する元オリンピック、安部孝駿氏などによる指導が公開されました。事業説明では、ヤマダホールディングスと連携し、本事業の中心を担う一般社団法人CORD PROJECT池淵智彦様より、受益者負担なしでの事業成立を目指していること、そのため、スポンサー及び協賛でカバーしていきたいことなどについての考えが示され、本市における導入の可能性についても検討するきっかけをいただきました。今後も事務局といたしましては、参集型、オンライン型を問わず、可能な限り積極的に参加し、様々なノウハウなどについて学んでまいりたいと考えております。

それでは、資料の方を戻っていただきまして2ページ（3）、各種アンケート調査についてでございます。最初に、中学校部活動地域移行に向けたスポーツ指導者に向けたアンケート調査でございます。調査対象は、上尾市スポーツ少年団本部役員、単位団代表者、指導者、母集団役員となります。結果としましては、本日配布しております別冊資料①にまとめてございますので、そちらを御覧ください。

続きまして、部活動地域移行に係る文化部活動アンケート調査についてでございます。こちらは、各中学校における文化部活動の顧問担当教員を対象に実施したものになります。結果につきましては、現在集計を行っているところでございます。なお、今後進めていく主な内容につきましては兼職兼業を希望する教員の意向調査、地域クラブ活動参加に係る生徒の負担に関する調査、上尾市在住の教職員に対する地域クラブ活動意向調査等各種調査の実施や上尾市における地域クラブ活動実施に向けた啓発活動の実施、また、上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針に係る意見聴取などを実施していきたいと考えております。報告（1）につきましては、以上でございます。

只限委員長

ありがとうございました。ただいまの報告に関しまして、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

私の方から、「アッピー部活動コーチ」「アッピー部活動サポーター」につきまして、一定の効果が出ているとのことでしたが、これにつきましては様々な検証をしながら充実させていっていただければと思います。

先進地視察につきましては、もう少し詳しい内容を委員の皆様にご提示いただければ協議を進めやすいかと思っております。それと、先進地域の取組として企業との連携がありますが、ある自治体では、小さな企業や個人から寄付を募ったり、クラウドファンディングを立ち上げたりしているところがございます。今後、受益者負担をなしにするためにバックアップとなる企業との連携についても検討してもいいかと思っております。

また、アンケート結果についてももう少し詳しく説明いただければと思います。

事務局  
(栗原)

スポーツ振興課の栗原でございます。別冊資料①を御覧ください。令和5年度中学校部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者に対するアンケート調査ということで、今後部活動を担っていく可能性のある団体の一つとして、スポーツ少年団に今後の地域クラブへの移行に際しての温度感をお伺いするといったことを趣旨として行った調査になります。上尾市のスポーツ少年団の概要について少しだけ触れたいと思っております。上尾市のスポーツ少年団の規模としましては、令和5年4月の時点で全ての単位団が41団でございます。その中で、サッカーが11団、バレーボールが2団、ミニバスケットボールが8団、ソフトテニスが1団、軟式野球が17団、ソフトボールが2団、空手道が2団、ドッジボールが1団、そのうち3団が複合種目でございます。団員数が1147名、指導者数が622名でございます。

調査時期を令和5年7月5日から令和5年7月31日としまして、スポーツ少年団の役員関係、保護者や少年団を支える事業者などを含む母集団を対象とし、97件の回答をいただきました。今回は、Web上の回答とし、なるべくお答えいただきやすいようにしました。設問1の中で、上尾市のスポーツ少年団ということで、住まいにつきましては上尾市内が概ねを占めておりますが、若干近隣市の方もいらっしゃいます。設問2では年代についての質問になります。スポーツ少年団は、基本的に小学生が中心の団体ですので、30代から40代の保護者世代の方が6割以上を占めております。

次に、3ページ設問5でございます。「学校部活動地域移行について知っていますか」ということで、団体の指導者もしくは保護者の方の認識についてお伺いしました。その中で「よく知っていた」「ある程度知っていた」という割合が70%近くを占めており、ある程度の方が地域移行について認識されているという結果でした。

次に、4ページ設問6といたしまして、スポーツ少年団の関係者に、「中学校における部活動の指導に参加したいと思いますか」という問いでございます。その中で「ぜひ参加したい」という方が1名、「時間がつけば参加したい」が13名、「条件次第では参加したい」が15名、「参加したくない」というのが68名ということで、アンケートの結果といたしましては約70%の方々が現実的には難しいであろうというお答えでした。

あとにつきましては、5ページ「資格をお持ちの種目についてお伺いします」ということで、上尾市の場合、野球少年団が多いため、結果的には野球が増えているという状況でございます。併せて設問9につきましては資格内容についてお答えいただいたものでございます。続いて7ページ設問12「指導可能な曜日について」でございます。地域移行の最初の目標

である、土日、祝祭日の指導についてですが、土日、祝日につきましてはある程度多くの方が対応可能であろうというお答えをいただいています。その次の設問13につきましては、時間帯についてお伺いしました。土日の午前、午後が概ね指導可能な時間帯であるという結果でございます。次の8ページの設問14でございます。こちらは今後持続可能な体制といたしまして、指導者に対する報酬についても検討していかなければならないということで、ある程度こちらで設定した金額について選択していただきました。その中で、時給といたしまして5000円、4000円、3000円、2000円、1000円と分けさせていただきました。あとは、ボランティア、交通費・費用弁償という最低限のものだけということでお答えいただきました。結果といたしましては、約40%以上の方が、金額云々ではないというような意向が見えてまいりました。このような形で温度感についてお伺いするような内容ではございますが、今回アンケート調査をさせていただきました。資料の末尾の方には実際のお声をまとめたものがございますので、目を通していただければと思います。

事務局  
(玉造)

続いて、生涯学習課の方からもお願いします。

事務局  
(白石)

生涯学習課の白石と申します。8月下旬にアンケートを実施いたしました。文化部の現在の活動状況をまず知りたいということで、各学校の先生方をお願いしたことになります。文化部については、あまり土日の活動はしていないかと思いますが、吹奏楽部が土曜日に活動しています。大石南中以外は吹奏楽部がございますので、吹奏楽部の土日の活動についての方を中心と考えていきたいと思っています。皆さんが心配されていることとして、平日の部活動と休日の部活動で指導者が変わることや、費用のこと、学校内ということで、生徒のケアの面などがありました。掛川市のように部活動を廃止するという考えをイメージしている先生はまだいないのかなということがありますし、どういう方向性でいけばいいのかということについてはまだ図り兼ねているところでございます。そういった前提のもと、部活動を地域移行していくことが可能かという質問に対しては、吹奏楽部については、半分強ぐらいが可能ではないかという回答でした。御自身の専門が音楽ではない、または音楽が専門であっても吹奏楽が専門でない中で担当するのは、やはり負担であるという回答もございました。また、どうしても屋内ということもあって、管理上の問題が難しい、あるいは条件付きで可能かという話も出ていて、学校のものを使うのかという点でも疑問が出ました。楽器は高価なものがあるので、個人で持っている人もいれば、学校のものを使っている人もいて、条件が複雑に交差するのでモデル事業を行うにしても、今すぐ動くというのは難しい状況です。

只隈委員長

ありがとうございました。スポーツについては団員数1147名に対して、指導者数が622名ということで、かなり手厚い状況だと受け取りました。70%の人が指導者をやりたくないということは、そもそも少年団を指導者派遣の受け皿にするのかということについて協議を進めていかなければならないかと思います。ここについてはいかがでしょうか。

<p>萩原 副委員長</p>	<p>今子供の数が減っているのですが、上尾市陸上競技協会だと、10人に対して1人の指導者という割合ですが、実際に来られる人となると、常時来ているのは3～4人、あとの人は来られるときに来るといような形ですから、実質的に1人の指導者が20～30人の子供を見ることとなります。少年団につきましては、競技が多岐に渡りますから、指導者の数にも偏りがあります。</p>
<p>只隈委員長</p>	<p>文化部の方はどうですか。</p>
<p>鹿井委員</p>	<p>文化部は、特に吹奏楽部が厳しいのかと思います。文化部に関しましては、指導者を町中にいらっしゃる技術のある方に依頼して指導者として入っていただくことは可能かと思います。しかし、吹奏楽部の場合は、日常の活動に加えてコンクール等の大会もありますので、そこを考えると、なかなか知らない人が入ってというのは難しいですし、それを支える組織が市の中にあるかというところはありません。今個別に活動している団体が市内に3つあるのですが、自分が楽器を吹きたい人が集まっている団体なので、子供たちを指導するとなると難しいです。だから例えば指導者を市内の吹奏楽団の中から派遣するとか、あるいは恒常的に関わっていくとなるとハードルは高いのかなと思います。企業や県内の音楽大学と連携を模索していく必要があるのではないかと思います。</p>
<p>宮内委員</p>	<p>部活動に対して、PTAから補助金を出している学校が多いと思いますが、部活動が任意になると、PTA会費を補助金として出すのはいかがなものかという意見も出てきています。そうなってくると、今までPTAから出ていたものがゼロになった場合、校内の活動が難しくなることも考えられるのではないかと思います。先程も話に出ていましたが、吹奏楽部について、楽器が学校で購入ができなくなって受益者負担となると、活動できない子供が出てくるのではないかと思います。親としては子供がやりたいのであればやらせてあげたい、でも金銭面で難しいという御家庭があるとなるとできない子供が出てきてしまうのではないかと思います。</p>
<p>只隈委員長</p>	<p>貴重な御意見をありがとうございました。 少年団のアンケートですので、率直な意見だと思います。今はコンプライアンスと言われますので、様々な面で考えていかなければなりません。次に、報告（2）地域クラブ活動モデル事業の進捗について、事務局より説明願います。</p>
<p>事務局 (玉造)</p>	<p>報告（2）地域クラブ活動モデル事業の進捗について、御説明いたします。資料7ページ資料2-①を御覧ください。地域クラブ活動モデル事業実施の趣旨につきましては前回の協議会でお示ししたとおりとなります。それでは、現時点で既に指導しております2つの事業について報告させていただきます。最初に埼玉上尾メディックスバレーボールチームとの連携による、埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業についてでございます。こちらの事業につきましては、連携を希望する学校を募り、埼玉上尾メディックスから指導者を派遣し、休日の学校部活動を地域クラブ活動として実</p>

施する形でもモデル事業となります。連携校につきましては、希望があった南中学校及び上尾中学校で実施となりました。実施要項につきましては資料の9ページを御覧ください。まず、期間につきましては、南中学校が9月から11月もしくは12月までの週休日、上尾中学校が10月から1月までの週休日、それぞれ計10回を予定しております。指導者につきましては、埼玉上尾メディックス普及担当及びジュニアチーム監督の松田明彦様に御協力いただくこととなり、可能な範囲でメディックスの選手やOGも指導に参加することとなっております。モデル事業の実施にあたりまして、1回につき1000円、3か月分の3000円を参加費として徴収することといたしました。また、地域クラブ活動としての実施を見据え原則顧問の教員は出席しないこととしてございます。資料10ページに実施イメージを掲載しております。既に南中学校につきましてはモデル事業が始まっております。指導の様子をまとめましたので、モニタの方で御覧いただければと思います。(動画視聴)

続きまして、(2)上尾市陸上競技協会との連携についてでございます。令和5年9月17日(日)に上尾市陸上競技協会が主催する陸上教室を上尾市地域クラブ活動モデル事業として開催させていただきました。対象生徒は、上尾市立中学校に在籍する生徒のうち、参加を希望する生徒、場所は、上尾運動公園陸上競技場、参加費は傷害保険料のみの100円と設定いたしました。実施詳細につきましては資料11ページのとおりとなります。こちらにつきましても、指導の様子を画像として撮ってききましたので御覧いただければと思います。(動画視聴)

資料10ページにお戻りください。モデル事業の実施により、検証を行う事項といたしまして、前回出せていただきました内容に、皆様から御意見をいただきました内容を加えたものを再度掲出させていただいております。また、それぞれの検証の方向についても掲載してございます。御確認いただければと思います。では、報告(2)につきましては以上でございます。

只限委員長

ありがとうございました。

先進地域のモデル事業ということで報告いただきましたけれども、まとめを見ますと、上尾市も十分先進地域という扱いを受けるのではないかと思います。これだけの指導者が来てくれるとなると、原則先生は参加できませんというのは引っかけかかってしまいます。一流の方の指導を先生方も研修したいのではないかと思います。そういったところを検討してもらえればと思います。陸上教室については、萩原副委員長いかがでしたが。

萩原  
副委員長

この事業については、やれるのかやれないのか模索している状態で、今後どのように結んでいくのかということについてはまだわからない状態です。9月17日は上尾ジュニア陸上クラブの強化選手のために会場をおさえていたところがたまたま使えるかなということで、50名募集したのですが、最終的には42名の参加がありました。短距離が21名、長距離が8名、ハードルが4名、高跳びが2名、幅跳びが7名でした。コーチの方は、陸上競技協会のスタッフが9名、洞派先生、熊田指導主事も参加してくださいました。顧問の先生には声をかけていません。皆さん熱心に取り組んでくださったので、やってよかったと思っているのですが、指導する



	<p>側にとっては子供たちの実態が分からない、レベルも分からないという怖さがあります。子供たちにとっては、「この人たちは誰なんだろう？」と思うところがあると思います。当日熱中症になった子供がいて、クーラーのきいた部屋に移動して、アイシングして、保護者に連絡するという手続きを踏んだのですが、呼びかけても言葉が返ってこないの、この子がどういう子なのかわからなくて、結局一緒にいた子供に聞いて、直前まで林間学校に行っていて疲れが残っているということでした。また、よくこのような状態になるということで、保護者の方も「治ったら帰してください」ということだったのですが、こちらは心配だったので迎えに来てもらいました。こんな風に、子供の実態を知らないと難しいところがあります。学校の教員が職務としてこういうところに参加するのは難しいにしても、自分の趣味として参加するのはよしとしてもいいと思います。陸上競技は、種目がたくさんあって、用具も多いので、まとまった場所が必要になります。それを月1回とか恒常的に行うとなると場所の問題が出てきます。それからスタッフを集められるかという問題も出てきます。10月28日も同じことをやりますが、その際は子供90名に対して指導者9名、そして今度は参加費300円はかかるかと思います。そんなわけで恒常的にできるかどうか見極めているところです。</p>
只隈委員長	洞派先生は、教員という立場で参加されていかがでしたか。
洞派委員	やってよかったと思います。ハードルのやり方が全く分からなかった生徒が、専門的な指導を受けて新人戦に入賞しました。
只隈委員長	<p>例えば、練馬の大学のラグビー部でエントリーしているチームがあります。だから上尾も有能な学生を指導者として考えてもいいのではないかと思います。</p> <p>文化部については、こういうイベントを実施することはあるのですか。</p>
鹿井委員	<p>中学校の先生方が企画してやっていたのだと思うのですが、各校から希望者を集めてスペシャルバンドを組み、市民音楽祭で発表していました。コロナ禍で中止していたのですが、今年から復活しました。来年以降も続けるかは皆さん次第です。それをやるにあたっては、その場でいきなりはできないので、何回か集まって練習します。その際は、指導者というほどではありませんが、入って指導したりします。</p>
只隈委員長	今後のモデル事業の展開について、他には、どのようなモデル事業の企画を考えているのでしょうか。
事務局 (玉造)	まず文化部のモデル事業についても企画をしていきたいと考えております。今、関係団体と接触を始めているところでございます。第3回の際には実施内容について御報告できるかと思いますが、随時皆さんにも御報告させていただきます。あと、総合型地域スポーツクラブとの連携についても考えていきたいと思っております。
只隈委員長	今後、教育委員会にバックアップしてほしいことや要望はありますか。

洞派委員	会場をおさえていただきたい。
只隈委員長	中学校のグラウンドを使用することは可能なのですか。
事務局 (栗原)	学校開放事業というのがございますので、地域クラブ活動も学校開放の利用団体の一つとしてということであれば、土日の使用も可能かと思いません。
只隈委員長	中学校の先生方はいかがですか。
根本委員	モデル事業は、しっかりとした指導者から指導を受けることができますが、これが地域移行したときに指導者のレベルの差が生じてしまうのではないかと思います。「なんでうちの地域は」という意見は必ず出てくると思っています。それだけの指導者を集められるかどうか課題です。
都木委員	<p>私はずっと吹奏楽部を指導しておりましたが、さっきの陸上みたいな感じが吹奏楽でもいいのではないかと思います。曲を仕上げていくというところで部活を進めていくところがあるので、楽器ごとに指導してもらえる場を地域の中で考えていくことは一つの手かと思えます。ただ、埼玉県吹奏楽連盟でパート別講習会というものをやっていますので、そことの重なりがあります。でも実際は、パートごとにコーチを呼んでいる学校がほとんどなので、講習会に行く人が少ないという状況があります。吹奏楽部で地域移行を考えたときに陸上のイメージになっていくのかと思いました。</p> <p>それから、原則顧問がいない状況で、どうやって学校を開放していくのかというのが課題です。本校にも「アップ一部活動コーチ」の方がいらっしゃいますが、個人情報をごとまで出すかとか、けがをしたときにどうやって保護者に連絡するかとか、施設を開放するときはどうするかとか、顧問の先生から相談を受けています。</p>
只隈委員長	<p>学校が会場を提供していて、学校の機材は使えないというのもどうか、検討の余地があると思います。</p> <p>また、中学校の先生が参加してはダメというのも引っかけられます。研修会のような意味で先生方が学ぶ可能性をつぶすというのも、教員と指導者のダブルスタンダードになることも、指導者のレベルの差という面でも、かなり揉まないと進められないと思います。</p>
佐藤委員	吹奏楽部は、学校で決められている部費にプラスして少し多めに取っていると聞いています。なぜかという、パート別に講師を呼ぶのでレッスン料がかかるそうです。
都木委員	ピアノ科の先生が指導するパターンなどもあって、楽器指導経験のない先生が指導することもあります。吹奏楽部が一番お金がかかっていると思います。
只隈委員長	いかに良い環境を提供するかという話ですから、やはり行政に動いても

事務局 (玉造)	<p>らわなければというところがありますね。</p> <p>前回の協議会の中での「なかなか吹奏楽部が難しい」という話を受け、白岡市にも御相談させていただきました。白岡市の方でも最初は学校の吹奏楽部をそのまま地域に移行しようとしたけれども、まず無理だということですぐにあきらめたそうです。ではどこにフィーチャーしたかということ、学校毎にパート別の先生を呼んでいるという現状を受けて、平日にそういった先生方を呼ぶのは難しいので、白岡市の方で一斉にパート別の練習を休日に設けようと、そしてそこに皆一斉にお金を集めて、そこにお金を払おう、そこに補助金を当てようということにすれば、部の支出を減らせるし、地域移行にも進んでいくことができるからということを立て上げて今年から少しずつ進めているという話を聞いています。</p>
只隈委員長	<p>そこは、先程言った協賛を募るとかクラウドファンディングとか、知恵を出さないといけないですね。文化にしてもスポーツにしても感性の世界だと思うんです。感性が感情を呼び起こすので、クラブ活動の根幹を揺るがす部分で、中学生に何を感じてもらえるか、何を与えられるか、先生の役割が大きいと思います。その先生が参加できない、先生抜きで子供たちを集めるのはいかななものかと思います。</p>
都木委員	<p>吹奏楽は経済的に負担が大きいです。まず連盟に加入するだけで10000円、これは市が出してくれていますが、さらにコンクールに参加するのに10000円くらい、そしてトラック代に30000円くらい、年間2回くらいコンクールがあるので、お金がかかります。保護者に負担してもらってやりくりしないとそれだけの土俵に上がれないし、それにパート別に講師を呼んでいる状況です。</p>
只隈委員長	<p>それでは、次に協議に移ります。</p> <p>上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針素案について、事務局より説明願います。</p>
事務局 (玉造)	<p>上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針素案の協議にあたり最初に概要を説明いたします。まず、資料12ページを御覧ください。基本方針素案の作成にあたりまして、スポーツ庁及び文化庁「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」及び埼玉県教育委員会「埼玉県地域クラブ活動の整備・充実に係る方針」を踏まえまして、方針策定の背景から述べ、本市における地域クラブ活動実施に係る基本方針を作成することといたしました。また、基本方針につきましても、本市における地域クラブ活動実施に係る目標を定めた上で、方針を作成しますとともに、上尾市における地域クラブ活動実施の基本構想についても明記をさせていただきます。また、本市における地域クラブ活動実施の実像が見える化できるようにしたいと考えております。さらに、現時点で想定するスケジュールについても明記し、今後の進捗に見通しがもてるように考えてございます。それでは、基本方針素案について別冊資料②にまとめましたのでそちらを御覧ください。</p> <p>別冊資料②1ページを御覧ください。素案では4章立てとしまして、基</p>

本方針とともに計画策定の背景からスケジュールまでを述べております。最初に2ページを御覧ください。「第1章 上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針の策定」にあたりまして、文部科学省「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、上尾市におけるこれまでの検討状況や今後の本基本方針の位置付けなどについて述べてございます。続いて4ページを御覧ください。「第2章 計画策定の背景」につきましては、「1 少子化及びニーズの多様化」「2 生徒のスポーツ・文化芸術活動を支える人材の確保と育成」「3 これまでの部活動の位置付け・教員の働き方改革・上尾市における学校部活動の今後の方向性」の3項でまとめました。

「1 少子化及びニーズの多様化」につきましては、上尾市人口総数と生徒数の推移のグラフを用い、生徒数が緩やかに減少に転じている状況があること、ニーズの多様化につきましては、部活動数にはほぼ変化はないものの少子化による学級数の減少により、教員数も減少することで、今後部活動の種類が増加する見込みがないこと、令和5年5月現在、最も部活動数が多い中学校と最も少ない中学校では、11もの差があり、スポーツ、文化芸術活動機会の格差が大きいこと、令和5年2月に実施しました市内小学生を対象とした将来の学校部活動に関するアンケート調査で、中学校に入学して取り組みたい種目の上位にバドミントンやダンス、パソコンや水泳など、全校的に設置がない部活動や、トランポリンやプログラミングなど、学校部活動にない種目にも人気が集まっていること、故に、市内中学校の部活動については、生徒数減少の影響もあり、新規種目の設置ができず、生徒の多様なニーズに応え得る種目数を確保することが困難であることを述べ、少子化やニーズの多様化が進むこれからの上尾市においても、全ての子供たちが自分のチャレンジしたいことに取り組むことができるスポーツ・文化芸術活動に係る環境構築が必要であるとまとめさせていただきました。

「2 生徒のスポーツ・文化芸術活動を支える人材の確保と育成」につきましては、日本スポーツ協会「競技大会を支える人材とその活用状況に関する調査報告書」に記載の課題とともに、教員による指導上の課題などについて述べてございます。

「3 これまでの部活動の位置付け」といたしまして、学習指導要領における教科外活動の扱いの編について掲載するとともに、部活動の意義と留意点について述べてございます。併せて、教員の働き方改革についても部活動に対する教員がもつ課題感などについて掲載してございます。そして、上尾市における学校部活動の今後の方向性についても述べることといたしました。9ページとなります。スポーツ庁及び文化庁における「運動部活動・文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」を踏まえまして、上尾市における学校部活動の今後の方向性について検討しながら進めていく5点の事項について記載してございます。内容といたしましては、活動時間の適正化を図ること、指導体制の見直しを行うこと、部活動数の精選と、それに伴う活動機会を確保すること、誰もが参加しやすい運動・文化部活動を目指すこと、複数の活動を経験できる活動日数や時間への配慮をすることとございます。

以上、計画策定の背景を踏まえまして、11ページからが上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針となります。本章では、「目標及び地

域クラブの定義」「基本方針」「基本構想」「AGEO地域クラブの果たす役割」「実施主体とAGEO地域クラブへの生徒の参加」「組織」の6項でまとめてございます。

最初に、「目標及び地域クラブの定義」について、表のとおりまとめました。目標につきましては、「すべての生徒が、自己のニーズに応じたスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる 豊かで、持続可能な『地域クラブ活動』の実施」といたしまして、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」と定めることといたしました。また、学校教育の一環である休日の学校部活動を生涯学習の一環である「AGEO地域クラブ」とすることを併せて記載してございます。そして、「AGEO地域クラブ」につきましては、上尾市内の主たる活動場所といたしまして、「上尾市立中学校に係る部活動の方針」に基づく活動を行っていることなどが、上尾市教育委員会によって公認されたクラブチームとすることを定義といたしました。

12ページを御覧ください。こちらが、上尾市における地域クラブ活動実施に係る基本方針でございます。方針1として、「生徒が、生涯にわたって、スポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を積極的に整備すること」、方針2として、「生徒が、スポーツ・文化芸術活動に継続的に取り組むことができる強固な体制を整備すること」、方針3として、「生徒・保護者・教職員・地域指導者等、それぞれの思いを反映させた地域クラブ活動とすること」、方針4として、「地域クラブ活動への意向の時期については、学校部活動の現状や種目の特性等を考慮し、種目ごとに無理のないスケジュールにおいて推進すること」、方針5として、「上尾市における地域クラブ活動実施に係る情報を、市民に対し、広く周知すること」でございます。また、13ページにつきましては、前回の協議会でお示しいたしました基本構想につきましては、注釈を用いながら詳しく記載させていただいております。

「4 AGEO地域クラブの果たす役割」につきましては、「(1) 生徒のニーズに応じた充実した活動の実施」「(2) 教員の働き方改革の推進」「(3) 生涯学習の推進」を掲げてまとめました。また、「5 実施主体とAGEO地域クラブへの生徒の参加」として、15ページにまとめております。特に活動拠点を基本的に市内6つの地域に分けて設けることなどを記載してございます。また、「AGEO地域クラブ」実施主体への認定条件を記すとともに生徒の参加についても記載させていただきました。

「6 組織」につきましては、本事業に係る組織について簡単にまとめてございます。最後の「第4章 スケジュール」についてでございます。18ページを御覧ください。まだまだ検討過程の内容も多く、今後大きな変更が生じる可能性もあることから、あくまでも暫定的なスケジュールとなることは否めませんが、今後の見通しをもつために記載した内容でございます。内容といたしまして、「AGEO地域クラブ」の開始時期を令和8年8月とすることなどを示しております。

以上が、本基本方針素案の説明となります。なお、基本方針素案につきましては、関係者に対する意見見聴取を行ってまいりたいと考えております。資料12ページを御覧ください。現時点で考えております対象と方法については、記載のとおりでございます。本協議会において委員の皆様から御意見を頂戴し、基本方針素案を修正させていただきます。その後、意見聴取を11月中に実施し、基本方針案の作成に生かしてまいりたいと思

	<p>います。協議に係る説明につきましては以上でございます。</p>
只限委員長	<p>ありがとうございました。ここからは協議になりますのでよろしくお願 いいたします。ただいまの説明について、御質問がございましたら、お願 いいたします。</p> <p>学校ごとの部活動数に差があるとのことでしたが、今後統廃合の予定な どはあるのですか。</p>
事務局 (玉造)	<p>学校施設更新計画というものがございまして、学校施設更新基本計画の 中で、今後の生徒数の減少具合によっては、統廃合を含めた検討を行って いくことも方針として定められております。</p>
根本委員	<p>12ページの方針4で、種目ごとに御検討いただいたのはありがたいと 思っています。休日の学校部活動をやってはいけないというわけではない のですか。</p>
事務局 (玉造)	<p>学校が管理・運営する休日の学校部活動を令和8年8月には、「AGEO 地域クラブ」として、生涯学習の一環として行っていくと考えていますの で、現状としては、令和8年8月からは休日の学校部活動はないという理 解をしていただければと思います。</p>
根本委員	<p>一番心配しているのは、休日と平日の指導者が変わってしまうのが、子 供が一番混乱してしまうのではないかと考えていて、どうせやるのであれば、5ページにあるような部活動にない種目を地域部活動として実施し、 課題などを挙げながら地域移行を進めていってはどうかと思います。6つ の活動拠点についても、こんなにいらないのではないのでしょうか。令和8 年度までに整えばいいわけであって、それまでは土曜日は学校部活動を、 日曜には興味がある生徒がどこか一か所であるというのでもいいのではないかと 思います。</p>
只限委員長	<p>現場の立場としては、何拠点ぐらいがいいと思いますか。</p>
根本委員	<p>1種目1拠点でいいと思います。そこで基本的な技術を習得すればいい と思います。チームスポーツは、学校によっていろいろな考え方があるので 難しいと思います。</p>
只限委員長	<p>文科省の文言も大分変わってきています。答申が出たときは、移行しな さいということでしたが、早期に移行することが望ましいという書き方に 変わってきています。ということは、このような検討委員会を重ねていっ て、声が吸い上げられたときにそれがまた変わってしまうという感覚をも っています。基本方針をつくる際には大変な労力がかかると思います。 私たちも自分の立場として発信できる意見があれば出していただいて、上 尾市としての意見を出していくのは大事なことだと思います。また、教職 員の参加についてもアンケート調査等してもらえればと思います。</p>
事務局	<p>検討して参りたいと思います。教員の兼職兼業についても可能性をゼロ</p>

(玉造)	<p>にしているわけではございません。例えばモデル事業の中で今後の見通しとして、総合型地域スポーツクラブの方には、兼職兼業に係る取組モデルについてもお願いしているところがございます。できるだけ指導者の方に混ぜられるようにしていきたいという意向はもっておりますので、方針の中でも出せるようにしていきたいと思えます。</p>
只限委員長	<p>少年団の中で時給の話が出ましたが、一般の方で兼職兼業禁止の会社があったり、謝礼が発生すると税金の問題が出てきたり、不具合が出てしまうということも考えられます。</p>
事務局 (玉造)	<p>現状としましては、「アッピー部活動コーチ」と「アッピー部活動サポーター」がありまして、「アッピー部活動コーチ」については今年度から始めました。働いた分だけのお給料が出る部活動指導員、しかも顧問に代われるということで興味をもってくださいている方がたくさんいて、事前に問い合わせもたくさんありました。応募もたくさんありました。ただ、実際に採用に至らなかった一番の大きな理由が、フルタイムで働いている人の雇用が教育委員会でできないこと、勤めている会社からのストップがかかってしまったというのが大きな理由です。かえってお金をもらわない方がありがたいと考える方もいらっしゃるのも事実かと思いますが、そういうわけにはいかないところもありますので、謝礼という形で何かしら用意していくことも、制度として検討していかなければならないと考えております。</p>
只限委員長	<p>これは単発ではなく継続していかなければなりません。そこで「好きだから」「ボランティアで」となると続いていかないと思えます。</p>
鹿井委員	<p>現在部活動にないものを新規で取り上げていくという話がありましたがダンスや水泳など民間のスクールと変わらなくなってしまうのか、カルチャー教室化していかないかという心配があります。その辺の線引きはどのようにしていくのでしょうか。子供たちの意向に沿うということを見ると非常に悩ましいと思えます。</p>
事務局 (玉造)	<p>子供たちのニーズに合わせた地域クラブ活動の創設については、スポーツ庁、文化庁ともに求めていることですので、可能な限り対応していきたいと考えているところがございます。例えばプログラミングは、現状としてどこの学校にも一つもないですが、子供たちの需要はあります。週に1回でもどこかの会場をお借りして、市内の中学生が集まってプログラミングの勉強をできる機会を創出するというようなことは、できないことはないと考えています。水泳につきましては、鹿井委員の仰るとおり、スイミングスクールは日本の習い事として定着しているものがございますので、そこに切り込んでいくかということについては、施設をお借りするということ、通常の民間スイミングスクールにかかる費用では高すぎるので、その辺の交渉は必要かと思えます。子供たちのたくさんのニーズがある、でもどこの習い事を探しても難しい、だから地域クラブ活動でつくってあげようというところを最優先にしながら、可能性を探していきたいと思えます。</p>

佐藤委員	<p>中体連として大会参加にあたって、学校単位が基本かと思いますが、チームスポーツなどは試合に対してどういう流れでやっていくのかというのは難しいのかなと思います。逆に個人スポーツであればこういう取組もできるのかなと思います。</p> <p>もう一点、参加費についてですが、いろいろな御家庭があるので、通常の部活動の部費も払い、地域クラブにも払うとなると、どのくらいの費用になるのでしょうか。保護者の負担がかからないようにと思います。</p>
只隈委員長	<p>こうやって議論を積み重ねていくことが大事だと思います。上尾市が様々な情報を収集しながら地域移行を進めていますので、資料をもう一度熟読していただいて、問題点がございましたらまた御意見をいただければと思います。</p>
宮内委員	<p>大会参加について、学校単位でという話がありましたが、学校にない部活動や土日に活動しているクラブでの参加はどうなるのですか。</p>
事務局 (玉造)	<p>現状、中体連の方から学校の部活動から出てもいい、地域クラブ活動から出てもいいというような許可が出ている種目がございます。一例を挙げますと、バドミントンがそのような形になっています。市内で既に立ち上がっているミナトバドミントンクラブから出ている生徒も中学校の部活動から出ている生徒もおり、子供たちが選択できる環境が整っている例もございます。実は基本方針の4番に関わるところでもありますが、種目によっては地域クラブからの参加を認めていないものもあり、もしかすると令和8年8月までに県中体連として認められないということもあるかもしれないということもあって、一律に学校部活動をなくしますと言いつらい部分も本音としてあります。ただ、根本的には、バドミントンのように、平日は学校部活動として残ります、休日は地域クラブ活動ができます、だからどちらからでも大会に参加できる環境を準備してあげたいと思っています。</p>
只隈委員長	<p>平日は陸上、土日はゴルフをやっていますとか聞きますが、難しいですね。サッカーなんかだと、クラブチームからは高体連の大会に出さないとかありますからね。</p>
事務局 (玉造)	<p>サッカーなどは、クラブチームに所属している生徒は学校部活動に参加できないというのがありますので、今後クラブチームが中体連の大会にエントリーした時に認められるかどうかというところについてはまだまだ議論が行われていないところがありますし、今の方針が踏襲されるだろうという見込みはありますが、もしかすると地域クラブ活動として認められる可能性もあるので、その辺の動向を見つつ、我々も「AGEO地域クラブ」として認定できるクラブチームを決めていかなければならないと考えています。</p>
根本委員	<p>令和8年までは、地域クラブは大会に参加するためのものではなく、個人のスキルを高めていくものであるということにして、令和8年までは学</p>



	<p>校で大会に参加する、令和8年からは一斉に変わるというのであれば混乱しないのではないかと思います。厳密にいうとクラブチームに入っても出られないわけではありません。クラブ側がクラブで登録しているんだから中体連の方は遠慮するよう指導をしているということです。</p>
<p>只隈委員長</p>	<p>野球部も陸上部も登録するということ是可以するんですか。</p>
<p>事務局 (玉造)</p>	<p>2種目までなら可能です。</p>
<p>根本委員</p>	<p>拠点については、東側、西側にそれぞれ拠点を置く方法も考えられると思います。</p>
<p>事務局 (玉造)</p>	<p>6地域にした一番の理由は交通安全です。保護者の送迎などの負担がないようにしたいということを優先に考えたところ、上尾市は東西南北広いので、東西に拠点をつくって生徒がそれぞれ行くとなったときに、中学生なのでできないことはないと思いますが、6地域あった方が望ましいだろうというのが事務局の意見です。ただ、指導者の質というところが重要になってきますので、質が確保できないにも関わらず6拠点用意してしまうと、子供たちがスポーツ・文化芸術活動に親しむどころか、嫌いになってしまうことも起きかねないので、質が確保できたうえでの6拠点を目指しますが、11校の中学校がありますので、合同部活動の考えが根本にある合同地域クラブ活動になっていくというイメージをもっているところです。ただ6拠点多いということであれば、数にはこだわらず、基本方針に反映させてもいいのかと思いますので持ち帰らせていただきます。</p>
<p>只隈委員長</p>	<p>長時間に渡り、貴重な御意見ありがとうございました。進行への御協力ありがとうございました。司会を事務局にお返しいたします。</p>